

なぜ学生として 物流・貿易領域に取り組むのか

～学生×AIで、物流・貿易の課題に向き合う～

自己紹介



河村亮 慶應大学3年
代表取締役 CEO

- ・ 医療AI・LLM研究に 事
- ・ 国際学会採択、松尾研DL講座で実績
- ・ アプリ開発・AI PM/開発経験



猪俣一樹 慶應大学3年
取締役 COO

- ・ スタートアップの経営への参画経験
- ・ 営業・運用など幅広い実務を経験
- ・ 行動力と実行力で事業推進を担

異なる強みを持つ2人で、物流・貿易領域の課題に向き合っています。

会社紹介



会社名

株式会社Cargit

事業内容

AI開発・業務設計及びDX・ソフトウェア開発

注力領域

物流・貿易領域（現在は通関向けのAIを開発中）



Mission: 産業の最前線に、テクノロジーで価値を運ぶ

物流・貿易という産業の最前線に
AIというテクノロジーの力を届けたい

なぜ私たちがこの領域に挑むのか

1

AIと非常に相性の良い領域

文書処理・確認・照合など、物流・貿易はAIと相性の良い業務が多数存在している領域です

2

インドネシアでの原体験

「日本の素晴らしい商品をもっと海外へ」と強く感じていた

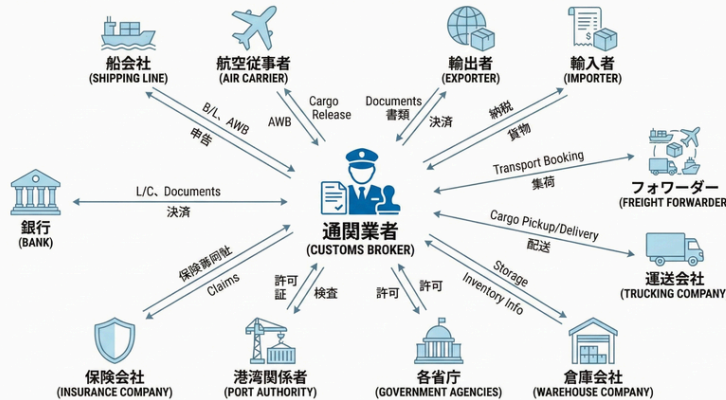
3

現場を見て得た、「ここが向き合うべき領域」という確信

物流を支える方々と実際にお会いし、交流をし、この領域の重要性と難しさを知り、自分たちが挑むべきだと感じました

学生の立場から見た業界課題

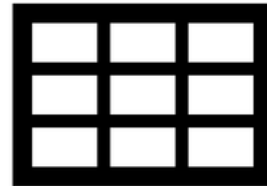
プレイヤーの多さ



荷主、フォワーダー、倉庫、運送会社、通関業者、船社など、多くのプレイヤーが関わり、その分、確認や調整の回数が増え、情報の分断や伝達漏れが起こりやすい構造

非構造化データが主体

構造化データ



非構造化データ



メール、PDF、紙帳票、Excelなど、定型化されていない情報が多い
さらに、関係者ごとに異なるシステムを使っているため、情報が分散し、連携しづらい

業界慣習



長年培われてきた商習慣や業務フローが根強く残っており、新しい仕組みを導入しようとしても、現場全体での変更にかかる時間がかかる
そのため、非効率があっても改善が進みにくい場面がある

最新のAI技術

近年は、AIが研究段階の技術から、誰でも使える実用的な技術へと変化し
特にChatGPTの登場以降、AIは一部の専門家だけでなく
多くの企業や個人が活用する存在となった



LLM（大規模言語モデル）

人の言葉を理解し
自然な文章を作れるAI

LLMは、大量の文章データを学習することで、
人が使う言葉を理解し、質問に答えたり、
文章を要約したり、文書を作成したりできるAI
代表例としては ChatGPT や Gemini などがあり、
最近の生成AIブームを支えている中心的な技術



AI-OCR

紙や画像の文字を
読み取り、データ化するAI

従来のOCRは決まった書式の文字読取が中心でしたが、
AI-OCRは手書き文字や崩れた帳票、
複雑なレイアウトにも対応しやすいのが特徴
より実務に近い書類処理で活用が進んでいる



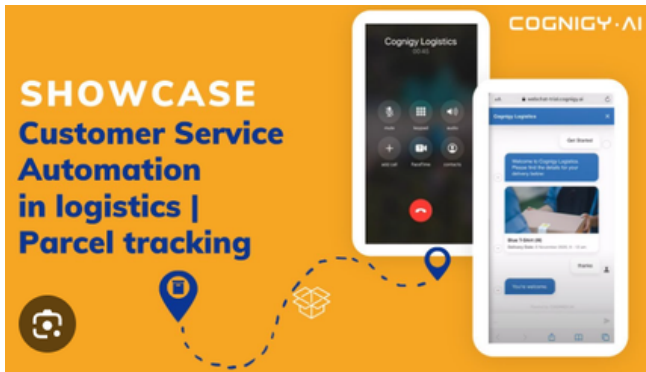
AIエージェント

目的に向かって
自律的に考え、行動するAI

指示された内容に対して、自分で必要な情報を集め、
考えながら作業を進めるAI
単なる応答だけでなく、調査・整理・実行
まで担える点が特徴

物流・貿易領域でのAI活用例①

LLMによる問い合わせ対応 -TDSE株式会社-



貨物状況に関する問い合わせや料金に関する問い合わせ対応を生成AIで自動化し、24時間対応と品質の平準化を実現。

<https://cognigy.tdse.jp/use-case/logistics/>
より抜粋

AI-OCRによるデータ化 -shippio-



複雑な貿易書類をAI-OCRで読み取り、B/L番号・コンテナ番号などを自動転記。手入力工数の削減と入力ミス防止を実現

<https://service.shippio.io/>
より抜粋

AIエージェント -セイノー情報サービス-

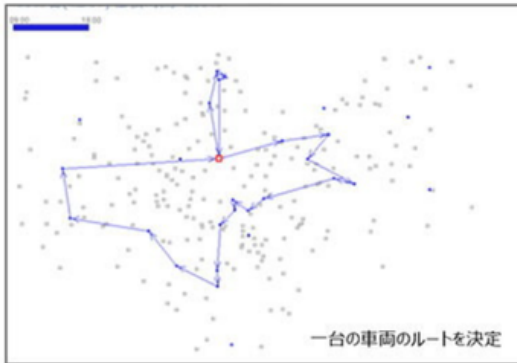


物流現場の状況をAIが分析・判断し、将来予測や改善アクションを提示。管理者・作業者の意思決定支援に活用

<https://www.siscloud.jp/logistics-it-cloud/solution/logistics-agent/> より抜粋

物流・貿易領域でのAI活用例②

AIによる配車最適化 -日商エレクトロニクス-



一般のルート最適化技術(TSP)



日商エレの最適配車サービス(VRP)

複数車両を前提とした最適配車指示により、
配送ルートだけでなく、車両全体の割当まで含めて最適化
配車担当者やドライバーの作業負荷を低減し、
勤務時間の平準化や配送効率向上を目指す

<https://dcross.impress.co.jp/docs/news/001798.html> より抜粋

AIによる積み込み最適化 -Soft on Net-



ID	cat	log	length	weight	x	y
A0006	98	83	97	96	0	100
A0008	100	55	92	56	360	195
A0009	92	93	67	80	342	89
A0013	79	89	96	84	178	188
A0019	93	80	100	74	276	0
A0022	91	94	69	58	383	195
A0023	56	98	97	80	294	173
A0032	93	100	50	51	186	0
A0044	94	91	62	76	192	172
A0048	100	55	85	81	177	249
A0101	80	100	97	92	196	0
A0106	80	99	94	95	90	100
A0109	96	54	63	68	192	263

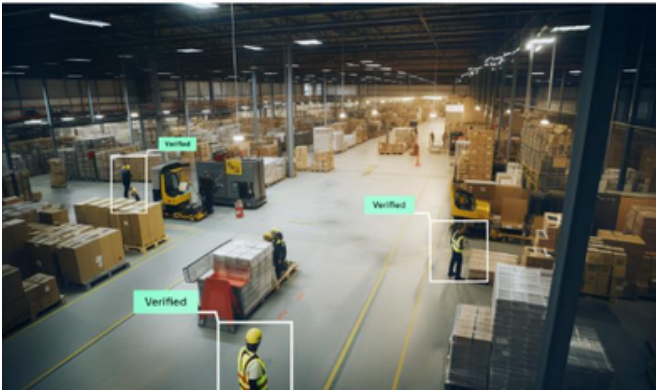


荷物の大きさ・重さなどの積み込み条件から、
AIが最適な積み込みを計画・提案するシステム
凹凸や比重、重い荷物を下に置く条件、重心、優先順位など
も考慮し、人手では難しい積み付け計画を支援する

<https://ai.son.co.jp/service/a-planner/a-planner-03.html> より抜粋

物流・貿易領域でのAI活用例③

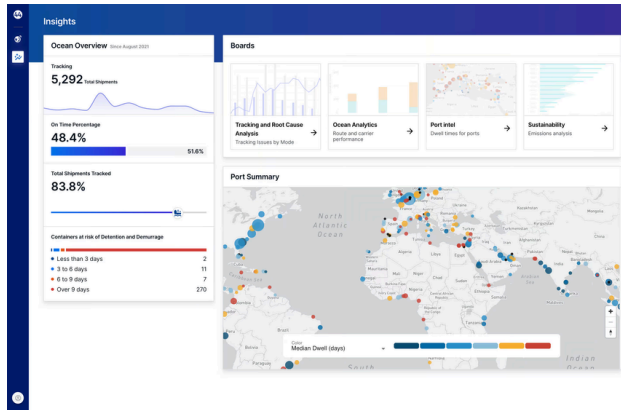
AIによる倉庫内の可視化 -DHL-



カメラ映像をAIで分析し、倉庫内やヤード内の混雑箇所・ボトルネックを見える化。
ヒートマップで作業の偏りや滞留を把握し、人員配置やレイアウト改善、作業効率向上につなげる。

DHLより抜粋

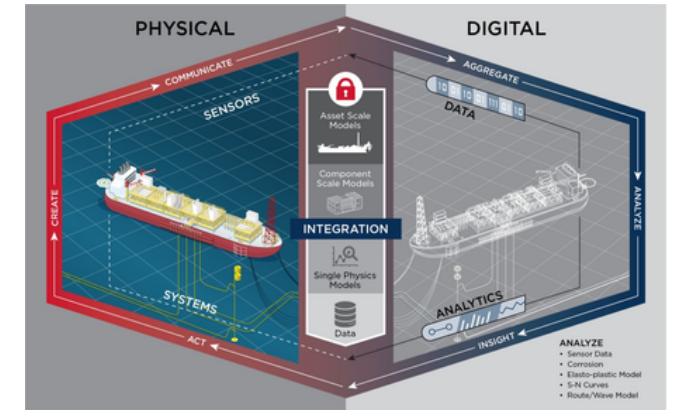
AIによる遅延予測・例外対応 -project44-



リアルタイムデータと過去データをもとに、荷物の遅延や混乱を先読み
単に「今どこか」を見える化するだけでなく、遅れそうな案件への対応判断まで支援

project44より抜粋

AIを用いたデジタルツイン -Maersk-



物流やサプライチェーンをデジタル上に再現し、どこで滞りが起きるか、どう改善すべきかをシュミレーション。
AIやデジタルツインを活用し、意思決定の高度化や全体最適を行う。

Maerskより抜粋

現在取り組んでいる通関SaaS

通関業者向けAIエージェントシステム 「Cargit Customs」



AI-OCR



顧客対応
自動化

#	品目詳細	HSコード	原産国	関税	税率	数量	重量	単価
1	Diesel Generator Set 品目コード: PRD-0101	8502.11-000	CN	WTO税率	0.0%	2,000 SET	1,840 kg	¥480,000
2	Pallet Stretch Film 品目コード: PRD-0104	3920.10-000	CN	WTO税率	4.8%	120,000 CTN	72 kg	¥98
3	Printed Paper Carton Box 品目コード: PRD-0103	4819.10-000	CN	WTO税率	0.0%	180,000 CTN	126 kg	¥85
4	Industrial Servo Motor 品目コード: PRD-0102	8501.31-000	CN	WTO税率	0.0%	12,000 PCS	960 kg	¥28,500



関税自動計算



システム
自動入力

現在、通関業者2社と共同開発を行っています。